

児童生徒支援利用計画書(案) / サービス等利用計画書(案)

利用者(クライアント)氏名	障害程度区分	相談支援事業者名	千葉相談支援事業所Guardian(ガーディアン)
障害福祉サービス受給者証番号		計画作成担当者	山口 哲郎(やまぐち てつろう)
地域相談支援受給者証番号	通所受給者証番号		

計画書(案)作成日	モニタリング期間(開始年月)	利用者同意署名欄	印
-----------	----------------	----------	---

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	本人は、友達と仲良く過ごしたいと言う思いが強く、人との関わりを大切にしたい気持ちを持っている。一方で、自分の思いが強くなってしまい、言い方がキツくなったり、納得がいかない場面で感情的になってしまう事がある為、場面に応じた適切な言動や感情のコントロールが出来ようになりたいと考えている(親や姉にも汚い言葉になる事があり、姉とは喧嘩に発展しては物にあたったりもある。友達・姉妹とは仲良くして欲しい)。学校生活に於いては、授業への苦手意識や不安感があり、学友との些細なトラブルがあれば登校を渋る事がある為、安心して学校生活を送れるようになりたい。中学校進学を控え、環境変化による不安定さが出ないか心配しており、無理なく新しい環境に適応できるような力を身につけたいと希望している。学習面では、理解の難しさや意欲の波が見られる為、「わかる・できた」という成功体験を積み重ね、自信を持てるようになりたい。対人関係では、友人関係のトラブルをキッカケに深く落ち込む事がある為、気持ちの切り替えや関係調整の力を身につけたい。健康面では、ストレスが身体症状として表れやすい為、不調を早めに周囲へ伝えられるようになりたい。また、食欲が旺盛である事から、健康的な生活習慣を身につけ、体重管理にも気をつけていきたい。家庭では料理をする事が好きであり、今後も生活スキルとして伸ばしていきたい。将来的には、自分の強みを活かしながら自立し、安定した生活を送れるようになりたい。保護者としては、感情のコントロールや対人関係の力を育み、年齢相応の生活態度が身につくことを願っている。また、姉の進学状況との比較により自己否定感が強まらないよう、本人らしい成長を支えていきたいと考えている。ひとり親家庭で就労を継続しているため、日常生活や子育てにおける負担軽減も含め、継続的な支援を希望している。
総合的な援助の方針	中学校進学と云う大きな環境変化を見据え、本人が安心して学校生活を継続できることを最優先とし、感情のコントロールや適切な自己表現の力を育みながら、学習面での成功体験を積み重ね自己肯定感の向上を図るとともに、料理などの強みを活かした生活スキルの向上を通して将来の自立基盤を形成する事を目標とし、学校を始めサービス担当者が役割を明確にしなが情報共有と一貫した支援を行い、ひとり親家庭の負担軽減にも配慮した包括的な支援体制を構築していきます。
長期目標(12ヶ月後)	12ヶ月後の理想像として、自分の感情や体調を適切に伝えながら対人関係や学校生活に安定して適応し、学習や生活面に主体的に取り組み、強みを活かしつつ将来の自立に向けた基盤が形成されている。
短期目標(6ヶ月毎)	具体的な支援目標として、自分の気持ちを適切に言葉で表現しながら感情のコントロールを意識し、安心して学校生活に参加できる時間を増やすとともに、学習や生活面で小さな成功体験を積み重ね、家庭と連携した安定した生活リズムを整える。

優先順位	解決すべき課題<本人・家族のニーズ>	支援目標<本人と挑戦する目標>	目標達成時期	福祉サービス等<種類・内容・量(頻度・時間)>	課題解決のための<本人の役割>	目標評価時期	その他の留意事項
1	感情調整及び対人スキル強化	怒りや不満を適切な言葉で表現し、トラブル時にも落ち着いて対応できるようになる。			感情が高ぶった時に一度立ち止まり、言い方を考えてから伝える練習をする。		衝動的言動や友人トラブルへの対応力を高める為、感情の言語化・自己制御・適切な自己表現を習得できる支援を行う必要がある。
2	学習成功体験の構築と自己肯定感の向上	自分に合った目標に取り組み、「できた」と感じられる経験を増やす。	12ヶ月	放課後等デイサービス●● 放課後等デイサービス■■■	難しいと感じてもスグに諦めず、分らないときは質問する。	12ヶ月	学習への苦手意識が自己否定感に結びつかないように、達成可能な目標設定と成功体験の積み上げを行う必要がある。
3	生活態度の安定と生活スキルの強化	家庭や事業所で役割を持ち、年齢相応の行動を意識できるようになる。			任された役割を最後までやり切り、自分から取り組む姿勢を持つ。		年齢相応の役割形成と健康管理意識を高め、料理等の強みを活かしながら自立基盤を形成する必要がある。
4	情緒安定と医学的評価・助言	自分の体調や気持ちの変化に気づき、適切に伝えられるようになる。	12ヶ月	▲▲心療クリニック <児童心療・精神科、毎月1回>	診察時に困っている事や体調の変化を、自分の言葉で話す。	12ヶ月	感情の波や身体症状について医学的観点から継続的に評価し、必要に応じて助言を行い、生活全体の安定を下支えする必要がある。
5	中学校進学・定着に向けた環境移行支援と安定登校確立	中学校生活への不安を整理しながら、安心して登校を継続できるよう力を身につける。	12ヶ月	ご家庭 ●▲小学校(普通級) ※3月で卒業 ▲■中学校(支援級) ※4月に入学	不安や体調の変化を我慢せずに伝え、困った時は先生へ相談する。	12ヶ月	進学による環境変化で情緒不安や登校困難が生じないように、合理的配慮の検討と事前の情報共有を行い、安心して学習・集団生活に参加できる体制を整備する必要がある。
6	ご家庭・学校・関係機関連携の統括と家族負担軽減支援	支援を受けながら安心して生活し、自分の成長を前向きに捉えられるようになる。		千葉相談支援事業所Guardian	支援者との約束や話し合いに参加し、自分の希望や考えを伝える。		各機関の支援方針を統合し、ひとり親家庭の負担軽減を図りながら、一貫性のある支援体制を維持する必要がある。